

令和元年度 学校評価書

学校名:和歌山市立和歌山高等学校定時制 学校長名:勝本 泰弘

目指す生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○社会の変化に対応できる思考力・判断力・表現力を身につけた生徒の育成 ○平和を愛し、人権やルールを大切に人間愛に満ちた生徒の育成 ○運動能力を高め、健康で安全な生活を営む生徒の育成
--------	--

本年度の重点目標 ○安全教育の推進 ○豊かな心の醸成 ○確かな学力の育成	・自他の安全に配慮して安全な行動がとれるよう、安全教育を推進する。
	・基本的な生活習慣を確立させ、豊かな人間性と創造性を備えた生徒を育成する。
	・基礎・基本を定着させ、情報化社会に積極的に対応できる能力を養う。
	・勤労を重んずる精神を養うとともに、個人の適性に応じた進路指導を推進する。

達成度	A	十分に達成した(80%以上)
	B	概ね達成した(60%以上)
	C	あまり十分でない(40%以上)
	D	不十分である(40%未満)

現状と課題	課題解決の取組	自己評価	改善充実策	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者評価
安全教育・安全管理 安全教育として、生徒指導部と協力し、交通安全講話等を実施し、通学時の意識向上を考える。 安全管理は、避難訓練を実施し、緊急避難時の避難経路等を生徒全体に把握させ、自己防衛の意識を持たせる。また、職員においては、生徒の誘導と、不審者侵入時の対応マニュアルの徹底を行う。	特設LHRを実施し、全校生徒に対して外部講師による講話を行う。 常設LHRの時間を利用し、地震時の避難訓練とその後の津波時の避難訓練を同時に行い、避難場所の違いを生徒に指示誘導し把握させる。同時に個人の判断の大切さも理解させる。	特設LHRの実施は実現できなかったが、他分掌が実施する講演への補助という形を代用した。避難訓練はVTRの視聴と総務部長による講話により、災害時の対応等について十分理解したと考える。	防災安全教育については、近隣の消防署等の指導助言を受けながら指導を行っていききたい。 近々発生すると言われている、東南海・南海地震に備え、地震避難訓練に垂直避難以外の避難方法も加味していくべきと考える。	B	障害のある生徒の防災安全対策について考察する必要がある。	・地震等の避難訓練、不審者侵入者への対応等の指導を徹底を願う。 ・緊急避難時の行動は、頭で理解できていてもいざとなかなか行動に移せないと思われるので、地震や火災を想定した避難訓練等を継続して実施してほしい。また、今後も特設LHRを実施するなど、外部講師や消防署等の関係機関と連携しながら、防災教育に取り組んでいただきたい。 ・生徒の安全が第一です。 ・過ごしやすい環境を整えてください。
生活指導 問題行動等に問題はないが、人とのコミュニケーション能力がやや欠けている面が見受けられる。 また、通学方法については、自転車・原付での通学が大半を占めているので交通安全の徹底指導が重要である。	学校行事等でも、コミュニケーションの取れるような内容を考慮し、担任・生徒・家庭との連絡を密にし、多面からの指導に取り組む。 また、校内での交通安全講習、外部講師による交通安全講話や薬物乱用講座を開催し、命の大切さや他者への思いやりを学習し、実践する。	各学期に、学校行事を設け、コミュニケーションをとれるように内容を考え取り組んだ。また、交通講話・薬物乱用講話を行い意識向上を図った。各種行事を全校で取り組むことで、生徒間の対話も増え明るい雰囲気になった。問題行動も無く安定した学校生活ができる環境づくりができた。	生徒数が減少しているため、全ての行事を、クラス・学年単位で取り組むのではなく、学校全体で取り組む内容にさらに移行する。生徒指導に係る生徒への連絡は、アセンブリー等を行い、生徒全体に伝わるよう工夫する。	A	他の定時制高校生との交流にも力を入れて情報交流を活発化する。また、登下校中に事故等に巻き込まれないよう交通安全・防犯意識の向上に向けた取り組みを行う。	・先生、生徒のコミュニケーションに重点指導を願う。 ・登校意欲や基本的な生活習慣などに様々な課題を抱えた生徒が在籍する中で、問題行動がないことは日頃の先生方の取組の成果とともに落ち着いた学校と言える。また、生徒のコミュニケーション能力を養うために、学校行事や家庭との連携などに創意工夫しながら対応したことも生徒の成長に大いに役立ったと思う。今後も、登下校の交通安全とともに命の大切さについて、意識向上に向けた取組をお願いしたい。 ・学校と保護者、生徒とコミュニケーションを図り、生徒の様子を把握する必要がある。 ・交通、災害、不審者対応や悩みについての話し合いや相談室等の充実を期待する。
学習指導 高校入学まで不登校であったり、学校を休みがちであった生徒が依然として多く、そのような生徒に対する適切な対応が必要である。入学後、学習に取り組む姿勢が身に付いていない生徒もあり、そのような生徒に対する対応も必要である。また、身体に障害がある生徒があり、学習しやすい環境に整える必要がある。	学び直しの観点から基礎学力の定着を目指して、反復練習等の工夫した授業展開を行っている。また、興味・関心を喚起するよう、適切な補助教材の作成等の工夫をしている。欠課時数が増加傾向にある生徒には、随時指導を行うとともに家庭と連絡を密にし、きめ細やかな指導を心がけている。また、身体に障害のある生徒には、状況に応じて配慮を行っている。	わかりやすく、興味や関心のわく授業になるように工夫し、各生徒の特性に合わせたきめ細やかな授業を展開した。本校入学前に長期欠席していた生徒の学習意欲も引き出し、その多くが前向きに登校している。また、身体に障害のある生徒が学習しやすい環境に整え、人的なものを含めた支援ができた。さらに、学習意欲のある生徒や卒業後の進路に対応した学習が必要な生徒には長期休業中や始業前に補習講座を実施し能力向上を図った。	今後も、よりいっそう基本的学力の定着に努め、補助教材の作成や反復練習に重点を置いた授業を実施し、興味・関心をもって学習できるように指導していく。学力差や多様な個性、様々な環境のもとで就学している生徒一人一人に対応できる学習環境を整える必要がある。また、引き続き、生徒の出席状況、授業態度、生活態度及びその変化等の情報共有を教員間で十分行う必要がある。	A	多様な個性を持つ生徒個々に対応した指導を継続していく必要がある。引き続き、できるだけ多くの生徒に興味・関心を持たせ、積極的に学習活動に取り組ませるような授業を実施し、生徒のコミュニケーション能力を育成できるよう工夫する。また、学習意欲の高い生徒や進路希望が明確な生徒に対応した学習環境を今後も整えていく。	・生徒には根気よく指導を願う。 ・先生方が積極的に授業改善に取り組む、学校を休みがちな生徒や学習意欲の乏しい生徒、身体に障害のある生徒等に対して、反復練習や補助教材の活用、個々の学力を考慮した指導を行ったことは評価に値し、基礎学力の定着や学習意欲の向上に繋がったと思う。今後もこれら取組のより一層の充実を図り、生徒個々の学力を保障するとともに、希望進路の実現をお願いしたい。 ・多くのことに興味関心を持って学習を期待する。 ・何をすべきか、目標を持った指導に期待する。
進路指導 4月当初におこなった進路希望調査では卒業予定者5名のうち、進学希望者2名、就職希望者2名、家業1名、未定者0名であった。本年度は卒業予定者も少なく、自分自身の進路について具体的な方向が定まっている生徒がほとんどである。しかしながら、その目標達成のためには根気強い努力と準備が必要であり、進路部としてできる限りの支援をしてくきたいと考えている。	まず卒業予定者に対しては、各教科の先生方に補習をお願いし、進路実現に向けた環境を整備したい。また全生徒に対しては、昨年度に引き続き正規雇用への意識付けを目的とした特設の進路LHRを予定している。	まだまだ不十分ではあるが、生徒は自分自身の進路について真剣に考え、その目的を達成するために積極的に行動できるようになってきている。例えば、就職希望者は応募前サマー企業ガイダンスに参加する者や、進学希望者は早くから志望校を決定する中でオープンキャンパスや夏季休暇中の補習に参加するなど、意識の高まりが見られたのは成果としてあげられる。	引き続き、関係機関との連携を密にし、生徒により多様な進路情報を提供できるよう体制を整えるよう努める。生徒個々の状況を早い段階から把握し、個々の進路実現に向け長期、短期の具体的な目標を設定する必要がある。	B	働くことの意義や就職に向けた職業意識の持ち方等を学習したうえで、生徒が自分自身のキャリアプランニングや将来デザインシート等を作成し、それらを実現するために今自分は何をしなければならぬかを考えられるような進路LHRを計画してゆきたい。	・生徒に様々な進路情報を提供して欲しい。 ・卒業予定者個々の進路目標達成のために、各教科の補習を行ったり、正規雇用の意識付けを目的にLHRを実施したりした取組を評価したい。応募前サマー企業ガイダンスやオープンキャンパス、夏季休業中の補習に参加するなど、生徒が自分の進路意識を高め、目標達成のために積極的に行動できたことは大きな成果と言える。今後も外部機関との連携を密に多様な進路情報を提供するとともに、生徒一人一人の希望進路の実現に敬意を払ってほしい。 ・働くことに関係する学習内容の把握し、自己主張できる生徒の成長を期待したい。 ・幅の広い指導が最も大切だと感じる。